

# 中日接触場面の話題転換の分析：中・日母語場面との比較から

楊 虹

## 要 約

近年日本語学習者の話題転換についての研究が見られ、これらの研究は共通して学習者の話題転換が時には母語話者に唐突な印象を与えるとは指摘している。しかし、従来の個々の話題転換表現のみの分析では限界がある。また、学習者の話題転換行動の問題点を考える際、学習者の日本語能力のほか、その母語の影響についても考えられる。そこで、本研究は、中日接触場面及びそれぞれの母語場面の話題転換に焦点をあて、会話参加者間の相互行為の観点から、話題転換のプロセスを比較分析し、接触場面及びそれぞれの母語場面の特徴を明らかにし、日本語教育への提言を行う。データは初対面の女子大学生の2者間会話（20分）を用いた。

## 【キーワード】

接触場面、協働的、話題転換のプロセス、日本語教育、初対面

## 1. はじめに

会話には話題があり、会話が続く限り、私たちは常に意識的、または無意識的に話題の展開・転換をくり返している。しかし、日本語学習者にとっては、スムーズな話題転換は容易なことではない。日本語学習者の話題転換に焦点を当てた研究では、学習者の用いる話題転換表現が相手に唐突さを与えるとは指摘されている（木暮 2002、Nakai 2002）。ただし、これらの研究はいずれも学習者の会話相手である日本語母語話者の分析はしていない。

会話は参加者間の相互行為であり、話題転換は、一人の参加者だけでなく、参加者間のやり取りにより成し遂げられるものである。話題転換においては、参加者たちが互いに先行話題についてもう充分話したということを見極める必要がある（Covelli & Murray 1989）。そのために、スムーズな話題転換には、自らの話題終了意思を示しあい、合意を確認するプロセスが多く見られることが推測される。学習者の話題転換の問題点を把握するには、話題転換を会話の流れの中で捉え、会話の参加者間のやり取りにより構築される話題終了のプロセスを分析することが重要ではないだろうか。

本研究は、中日母語場面に焦点をあて、中日母語話者による接触場面及びそれぞれの母語場面では、話題転換のプロセスはどのようなものかについて明らかにし、接触場面及びそれぞれの母語場面の違いを探ることを目的とする。以下本報告書では、そのうちの話題終了のプロセスの分析を報告する。

## 2. 先行研究

本研究は、参加者間のやり取りを通して作り上げられるものであるという前提の下、話題を「ある一塊の

談話で言及される事柄」と定義する。そして、話題転換を、「先行話題の焦点とは異なる内容を会話の話題として確立させる一連の言語行動」と定義する。また、話題転換は、基本的に先行話題を終了する行動と後続話題を開始する行動に分けることができると考える<sup>1</sup>。

まず、日本語学習者に関する研究を概観すると、前述のように、日本語学習者の話題転換表現の使用頻度を調べたものがほとんどであり、主に話題転換の言語表現の形式や、使用頻度から学習者の話題転換行動の問題点を指摘しており、会話参加者の相互行為の特徴にはほとんど触れていない。

次に日本語母語場面の研究を見ると、話題を終了させる働きを持つ各々の話題終了行動の役割の解明が主目的的研究が多い（Nakai 2003 他）。会話の参加者がどのようにやり取りを通して話題を終了させているのか、その具体的なプロセスの特徴（話題転換の型）を提示したのは村上・熊取谷（1995）のみである。ただし、村上・熊取谷（1995）は日本語母語話者にどのような話題終了の「型」が多く見られるかについてはあきらかにしていない。

中国語母語話者を対象とした研究は管見の限りない。そこで、英語母語話者を対象とした研究を見てみる。英語母語話者を対象とした研究で、West & Garcia（1988）は、話題終了のプロセスに焦点をあてており、会話参加者が話題を導入する前に、協働的に話題を終了しているかどうかで、転換のパターンを分類している。本研究は、中日母語場面の話題終了のプロセスを分析する際、West & Garcia（1988）の分類を参考にした。

## 3. 目的及び課題

中日母語場面の話題終了のプロセスを比較すること

により、中日接触場面の相互行為の特徴を明らかにし、その問題点を明らかにすることを目的とし、以下3つの課題を設けた。

1. 話題終了のプロセスにどのようなパターンが見られるか。
2. 話題終了のパターンにどのような出現傾向が見られるか。
3. 中日接触場面の話題終了のプロセスに中・日それぞれの母語話者の母語による会話スタイルの影響が見られるか。

#### 4. データ及び分析方法

中日接触場面（中上級学習者）14組及び中国語、日本語それぞれの母語場面11組の初対面会話の録音・録画をデータに用いる。接触場面および中国語母語場面は中国、日本語母語場面は日本国内の大学で収集したものである。会話の参加者は18～29歳の大学生・大学院生で全員女性である。

分析方法は、まず会話における話題は内容のまとまりを持つ発話連続を一つの区分として認定した。区分の認定に際し、一致率を算出し、一致していなかったところは協力者と協議の上、区分を決定した。

次に分析対象とした話題終了部を、新規話題が導入される直前の、一つまたは連続した複数の話題終了行動が見られる部分と定義し認定した。

本研究が認定した話題終了行動は、①相づち、②まとめや評価、③くり返し、④笑い、⑤声が小さくなる、⑥沈黙という6つの言語、非言語行動である。

課題1については、会話参加者の話題終了行動を分析し、両者の相互行為の特徴から話題終了のプロセスのパターンを分類する。

課題2については、中日接触場面及びそれぞれの母語場面の各パターンの全体に占める割合を算出し、比較する。

課題3については、接触場面における中・日それぞれの参加者の話題終了行動の特徴及びそれぞれの母語場面の話題終了行動との比較を行う。

### 5. 結果及び考察

#### 5.1 話題終了のパターン

会話の参加者間のやり取りの特徴から話題終了のプロセスを分析した結果、接触場面及びそれぞれの母語場面に共通して協働的終了、一方的終了、突発的終了という3つのパターンが見られた。

協働的終了は、参加者の双方からそれぞれ一回以上の話題終了行動が見られる場合である。このパターン

では、互いに話題への終了表示を相手に示すことにより、合意を取りながら話題を終了するという特徴が見られる。

一方的終了は、会話の参加者片方だけによる話題終了行動が見られる場合である。このパターンでは、先行話題に対する片方の参加者の話題終了行動が見られないため、話題終了に関する参加者双方の合意は形成されていない。

突発的終了は、会話の参加者双方から話題終了行動が見られない場合である。このパターンでは、話題終了部が見られず、先行話題が展開している最中に話題転換が行われる。

#### 5.2 それぞれの話題終了のパターンの出現傾向

中日接触場面及びそれぞれの母語場面の話題終了のパターンの出現傾向を図1に示す。

表1 話題終了のパターンの出現傾向

	協働的	一方的	突発的
日母語	92%	7%	1%
中母語	41%	21%	38%
接触場面	63%	15%	22%

中国語母語場面では、参加者の双方から話題終了行動が見られる協働的終了と全く見られない突発的終了はほぼ同じ割合であり、話題終了のプロセスのパターンに偏りが見られない。一方、日本語母語場面では、協働的終了は9割を占め、参加者間の合意を形成した上で協働的に話題を終了させるという明確な傾向が見られる。一方、接触場面では、協働的終了は6割以上を占める一方、突発的終了も2割以上見られ、日本語母語場面及び中国語母語場面のいずれとも異なる。

#### 5.3 母語による会話のスタイルの影響

接触場面における日本語母語話者と中国人学習者それぞれの特徴を見るため、話題終了のプロセスを次の話題導入者別で分析した結果を表1にまとめた。

表2 後続話題導入者別の話題終了のパターンの比較

	協働的	一方的	突発的
日母語	91%	7%	1%
接触(日)	75%	21%	4%
接触(中)	41%	39%	20%
中母語	41%	21%	38%

中国語人学習者が協働的な話題終了を経て導入したものは全体の41%で、中国語母語場面と同じ割合であり、母語のスタイルが影響していることが推測される。一方、突発的終了の割合は母語場面の半分強となり、母語場面と異なる傾向も見られる。

接触場面の日本語母語話者の場合、一方的話題終了のプロセスを経て、話題を導入するものが大幅に増える。すなわち、自ら話題終了行動を行い、会話相手の終了行動が見られないまま次話題を導入するものが増えている。中国人学習者が話題終了行動を示さないために、調整を行ったのではないかと推測される（会話例1参照）。

#### 会話例1 中国のテレビドラマ⇒天気の話

- 1J8 え、こっちの中国のと、香港の「笑傲江湖」、どっちが好きですか？  
 2C8 えー。  
 3J8 Zhongyangdianshitai (CCTV) が作ったの、と、香港の。  
 4C8 香港のほうが。  
 5J8 そうですねhhhh 導入者の話題終了行動  
 (2) 相手の終了行動なし  
 6J8 面白いですね。 導入者の話題終了行動  
 →7J8 今日は暑いですねー、私こんなに着たから、ちょっと暑くて。

#### 6. おわりに

本研究は、相互行為の特徴に焦点をあて、中日接触場面及びそれぞれの母語場面における話題終了のプロセスを分析した。その結果日本語母語場面では会話の参加者同士が合意を取りながら話題を徐々に終了に持ち込むのに対し、中国語母語場面では偏った傾向が見られなかった。接触場面では、参加者は中国人学習者の話題終了行動に母語の影響が見られ、またそれにより相手の日本語母語話者に違和感を与えたりすることも推測される。一方で、接触場面では、会話参加者が

相手参加者の言語行動に応じ、調整している場面もみられた。

本研究の結果により、日本語教育における談話ストラテジーの教育は、相互行為の視点を取り入れ、談話レベルで行うことの必要性が示唆された。また、その際に、日本語教師が学習者の持つ独自の会話のスタイルを踏まえた上で談話教育を行うことも重要であろう。

#### 注

1. この捉え方は、基本的に、村上・熊取谷(1995)を踏襲したものである。ただし、実際の会話において、場合によって、相手の発話に割り込む等、先行話題の終了行動が見られない話題転換も考えられる。

#### 参考文献

- Covelli, L. & Murray, S. 1989 Accomplishing topic change. *Anthropological Linguistics* 22, 382-389  
 Nakai, Y. 2002 Topic shifting devices used by supporting participants in native/native and native/non-native Japanese conversations. *Japanese Language and Literature* 36, 1-26.  
 West, C. & Garcia, A. 1988 Conversational shift work: A study of topical transitions between women and men. *Social Problems* 35, 551-573  
 木暮律子 (2002) 「日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について」『第二言語としての日本語の習得研究』 5、5-23  
 中井陽子 (2003) 「初対面日本語会話の話題開始部／終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』 16、71-95  
 楊虹 (2005) 「中日接触場面の話題転換—中国語母語話者に注目して—」『言語文化と日本語教育』 30、31-40  
 楊虹 (2007) 「中日母語話者の話題転換の比較—話題終了のプロセスに着目して—」『世界の日本語教育』 第17号 pp.37-52.

やん ほん／お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科  
 ochconv12@yahoo.co.jp